

令和3・4年度複合構造委員会 第12回幹事会 議事録

日 時：2023(令和5)年3月10日(金) 15:00～17:00

場 所：howlive 宮古島店 & Zoom

出席者：松本委員長，牧副委員長，齋藤(隆)幹事長，大久保幹事，夫山幹事，川端幹事，北根幹事，~~斉藤(成)幹事~~，櫻庭幹事，塩畑幹事，平幹事，内藤幹事，中村幹事，仁平幹事，橋本幹事，皆田幹事，山本幹事，岡崎事務局

配布資料：

幹12-0 令和3・4年度 複合構造委員会 第12回幹事会 議事次第(案)

幹12-1 令和3・4年度 複合構造委員会 第11回幹事会 議事録(案)

幹12-2 令和3・4年度 複合構造委員会 第4回委員会 議事録(案)

幹12-3 令和4年度 委員会予算執行状況

幹12-4-1 令和5年度の重点研究課題について

幹12-4-2 新規小委員会の設立について

幹12-5-1 令和5年度全国大会開催に伴う研究討論会企画募集について

幹12-5-2 令和5年度全国大会開催に伴う研究討論会企画案

幹12-6 令和5年度全国大会共通 共通セッションについて

幹12-7-1 第15回 複合・合成構造の活用に関するシンポジウム

幹12-7-2 第15回 複合・合成構造の活用に関するシンポジウム講演原稿募集

幹12-8 土木学会論文集A1特集号：複合構造

幹12-9 複合構造の継続教育

幹12-10 出版関連報告

~~幹12-11 H101 複合構造標準示方書小委員会~~

幹12-12 H108 土木構造物の300年暴露プロジェクト小委員会

幹12-13 H109 複合構造技術の発展に関する調査小委員会

幹12-14 H218 FRP複合構造の設計・維持管理に関する調査研究小委員会

幹12-15 H220 グリーングレーハイブリッドインフラの評価に関する研究小委員会

幹12-16 H221 樹脂・FRP材料による複合技術研究小委員会

~~幹12-17 H222 複合構造におけるプレハブ・プレキャスト工法の活用と性能照査型設計法の確立に向けた研究小委員会(案)~~

議事内容：

1. 委員長挨拶

松本委員長より，開会の挨拶がなされた。

2. 複合構造委員会 第11回幹事会 議事録(案)確認 (幹12-1)

齋藤幹事長より，第11回 幹事会 議事録(案)の説明がなされ特に修正もなく承認された。

特集号について，先日，シンポジウム小委員会と特集号小委員会の合同会議があり，来年度も今の枠組みで進めることができそうであると確認されたとの報告があった。

3. 複合構造委員会 第4回委員会 議事録(案)確認 (幹12-2)

内藤幹事より、第4回 委員会の議事録(案)の説明がなされ以下の修正点とコメントがあった。

10. 土木学会論文集A1特集号・複合構造の櫻庭委員→櫻庭幹事に修正する。

出版委員会に確認したところ、絶版図書の公開は委員会内部であれば問題ないとのことである。

4. 令和4年度 委員会予算執行状況 (幹12-3)

齋藤幹事長より、資料に基づき、現時点での委員会予算の執行状況について報告がなされた。

残りが114万円であり、幹事会での使用額を差し引いても、40万円程度は残る予定である。小委員会も合わせ支出予定がある場合は齋藤幹事長まで連絡する。

複合構造レポート19「複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響」は委員会内への送付を行っていないが、今年度予算で処理できるようであれば全員に送付する。

特集号のJ-STAGEアップロード費用は別会計になるので、支出がないが、事務局からは特に支出しなくてよいとの回答があった。委員会は最近ではZOOMでの会議だったので、旅費の支出がなかった。

5. 令和5年度 重点研究課題について (幹12-4-1)

塩畑幹事より、資料に基づき、2023年度「重点研究課題(研究助成金)」申請書、応募研究課題名『Society5.0に向けた社会インフラの管理システム構築のための調査研究』について説明があり、複合構造委員会からの応募が採択された旨の通知があったことが報告された。2023年度は6件の応募があり3件が採択されたとのことである。今年度の活動費は総額で350万円の助成で、複合は100万円の割り当てであった。

2024年5月初めまでに調査研究報告書、推薦委員会としての研究成果の評価、本助成制度のあり方への意見を出すよう指示があった。

6. 新規小委員会の設立趣意 (幹12-4-2)

塩畑幹事より、採択された研究課題名に対し設立趣意書についての説明があった。

課題名がSociety5.0に向けた社会インフラの管理システム構築のための調査研究であり、委員会名も同様にH110_Society5.0に向けた社会インフラの管理システム構築のための調査研究小委員会とした。

(1) 研究方法および活動内容

- ・複合構造物のデジタルツインを実現するための課題について調査・整理を実施する
- ・上記で得た課題解決に向けて分野横断的な知見の収集を目的としたヒアリング調査を実施する。

(2) 活動期間

活動期間は2023年3月末～2024年2月を予定している

(3) 委員構成

幹事として内藤幹事と山本幹事の2名をお願いしている。また、委員は幹事会メンバーで構成した。活動期間が1年と短いため、追加する委員がいれば、夏ころまでには追加したい。

(4) 成果の公表

成果の公表は2024年5月初めまでに提出しなければならない。また、2024年度の全国大会の研究討論会を設置することを考えている。

(5) 活動費

活動費は100万円である。交通費の支給はすると考えている。委員会はオンラインも併用しながら2

回程度の使用支出を考えている。

今後の進め方は、まず親委員会にメール審議をお願いしたい。メール審議を図る際に、親委員会から参加希望していただける委員がいるかどうかを合わせてお願いしたい。

意見：

- ・委員会期間としては1年である必要はないが、重点研究課題の期間があるので、1年で区切ったほうが良いように思う。

- ・メンバーは現幹事会メンバーとして、新幹事会メンバーが選定されたときに最終決定する。

- ・親委員会からの参加希望者も審議終了時点で承認としてもらい、次回親委員会で確認する。

まずは幹事会を開催し、議論を重ねて全体委員会を開催するという流れで考えているが、複合幹事団にもご意見番として本委員会の幹事会に参加要請する可能性があるため、よろしくお願いしたい。

7. 令和5年度 全国大会・研究討論会(幹12-5-1, 12-5-2)

齋藤幹事長より、令和5年度全国大会研究討論会についての説明があった。

H218とH222のFRP関連の委員会にお願いし研究討論会の企画案が出された。座長は西崎H218委員長が務める予定である。連絡係は橋本幹事にお願いすることになる。

研究討論会のタイトルは、「FRPをより上手に土木構造物に活かすには」である。

開催は、9/13の対面+ハイブリッドで申し込んだ。配信機器などは委員会側で対応するとのことである。話題提供者は、久保氏（宮地エンジ）、発注者、コンサルタントなど5名程度を考えている。

ハイブリッド開催の場合、準備などは委員会で行うことになっているので、事前に場所などを確認しておく必要がある。業者に依頼することも考えたほうが良い。

8. 令和5年度 全国大会共通セッション (幹12-6)

齋藤幹事長より、資料に基づき、土木学会全国大会「第78回年次学術講演会」共通セッションのスケジュールについての報告があった。

年講WGメンバーが決まり次第、講演のプログラム編成をお願いしたいと考えている。4月中旬から5月12日がプログラム編集期間となっている。

9. 第15回 複合・合成構造の活用に関するシンポジウム (幹12-7-1, 12-7-2)

仁平幹事より、資料に基づき「第15回複合・合成構造の活用に関するシンポジウム」の開催概要の説明がなされた。開催日は11月9日と10日の2日間である。開催はハイブリッド形式で行う予定である。

シンポジウムの作業について、来年度から大幅に作業量が増大することから、来年度の体制について2月22日に会議を行い、WGの体制を検討した。会場運営の実行WGと論文の原稿、推薦に関する推薦WGのメンバー構成を決定し進めていくことが確認された。推薦WGはメンバーが不足すると想定されるので、追加メンバーを選出する予定である。

シンポジウムの論文投稿について、施工実績や報告があれば、シンポジウムが盛り上がるのではないかという意見があった。最近はこのような報告が少なくなっている。

10. 土木学会論文集A1特集号：複合構造 (幹12-8)

櫻庭幹事より、資料に基づき、特集号の進捗状況報告があった。

投稿論文は8編あった。論文1編，報告1編は返却となった。展望論文は奥井先生にお願いしている。また，田中賞に値すると思われる報告が1編あった。次期（第6期）の体制について検討しており，親委員会での承認を考えると5月中旬にはメンバーを確定しなければならない。

11. 複合構造の継続教育 (幹12-9)

中村幹事より，資料に基づき，説明があった。来年度は講演会形式となる。スケジュールは，4月に小委員会，6月頃に講演者を決定する予定で進めたい。次期の体制について検討している。

12. 出版関連報告 (幹12-10)

櫻庭幹事より，資料に基づき，出版関連報告の状況について報告がなされた。出版委員会から，複合シリーズ 08「基礎からわかる複合構造」の土木学会の在庫が不足しているのので，200部増刷したいと依頼があった。櫻庭幹事より原価回収部数の最低部数を出版に確認して増刷することとする。前回改定から時間が経っているので，次の改定を始めたいとの意向があるが，示方書の改定に合わせたほうが良いとの意見もあった。

13. 小委員会報告審議事項 (幹12-11～17)

(1) H101 複合構造標準示方書小委員会 (幹 12-11)

特になし。

(2) H108 土木構造物の300年暴露プロジェクト小委員会 (幹 11-12)

大久保幹事より，説明があった。来年度からはメンバー縮小で委員会設置をお願いしたい。

(3) H109 複合構造技術の発展に関する調査小委員会 (幹 12-13)

仁平幹事より，第1回目は2023年3月22日に開催する予定であるとの報告がなされた。

(4) H218 FRP 複合構造の設計・維持管理に関する調査研究小委員会 (幹 12-14)

橋本幹事より，3月17日に最終の委員会が開催予定との説明があった。報告書の執筆と研究討論会に関する内容を検討する予定である。講習会は9月頃に講堂で開催予定である。

(5) H220 グリーングレーハイブリッドインフラの評価に関する研究小委員会 (幹 12-15)

特になし。

(6) H221 樹脂・FRP 材料による複合技術研究小委員会 (幹 12-16)

橋本幹事より，第1回の小委員会を1月6日に開催したとの報告があった。第2回は3月14日に開催予定である。

(7) H222 複合構造におけるプレハブ・プレキャスト工法の活用と性能照査型設計法の確立に向けた研究小委員会(案) (幹 12-17)

内藤幹事より，委員会名，複合構造におけるプレハブ・プレキャスト工法の活用に向けた研究小委員会に決定したとの報告があった。

3月2日に委員長・幹事長の打ち合わせを行った。今後の予定は、4月から6月に委員公募，8月頃にキックオフの予定である。

14. その他

特になし

最後に，牧 副委員長より，閉会の挨拶がなされた。

松本委員長より2年間の任期終了の挨拶があった。

以上
(記録：大久保宣人)